

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

<b>局名</b>	企画文化局
-----------	-------

<b>基本計画</b>	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき_誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興

担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
連絡先	582 - 2153	

21年度計画

-2-(2)-

<b>施策名</b>	市民の芸術・文化活動の促進
------------	---------------

<b>施策の概要</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもから高齢者まで、幅広い市民がさまざまな芸術・文化活動に参加する、生活に根ざした文化の振興について、市民や企業、行政が協力し合いながら支えます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	芸術・文化の振興

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	年度	H20年度			年度	H25年度
北九州市文化振興基金奨励事業の実施	年度	H20年度	計画	-	年度	H25年度
地域文化の裾野を支える芸術・文化活動の動機付けとなる文化振興基金奨励事業について、多くの利用を呼びかけたい。	現状値	34件	実績	27 件	目標値	事業実施
			達成度	%		
芸術文化育成負担金・補助金事業の実施	年度	H20年度	計画	-	年度	H25年度
市民の芸術・文化活動の促進を図るには必要な事業であるために実施しています。	現状値	16団体	実績	16 団体	目標値	事業実施
			達成度	%		
	年度		計画		年度	
	現状値		実績		目標値	
			達成度	%		
<b>コスト</b>	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	50,077 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源	41,970 千円	9,900 千円	

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>B</b>	生活に根ざした文化を振興するため、篤志家による寄付金等で基金を設立し、その運用益によって、幅広い年齢層の市民による様々な芸術・文化活動を支援しました。(H21年度は27件に対し採択。うち1件辞退) また、補助金等の支出により、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のための活動を支援しました。(H21年度は16団体に助成等)
<b>今後の局施策の方向性</b>	基金の運用や補助金等の支出による市民の自主的な芸術・文化活動に対する支援は今後も継続していく必要があるが、施策に対する有効性及び経済性などにも留意しつつ事業を実施する必要があります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

市民が芸術・文化活動をどのレベルまで行っている状態にしようとするのか、それに対して現実の事業がどう有効に機能しているのかなどの分析を今後検討することが必要と考えます。

施策名 市民の芸術・文化活動の促進

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
北九州市文化振興基金			12,327 千円	3,900 千円	裁量的経費			ア
事業費のうち一般財源			4,220 千円					
芸術文化育成負担金・補助金			37,750 千円	6,000 千円	裁量的経費			ア
事業費のうち一般財源			37,750 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円					

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	50,077 千円	9,900 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	41,970 千円	

局施策の  
21年度評価

**B**

【局施策評価】  
A:大変良い状況にある  
B:概ね良い状況にある  
C:概ね良い状況とまでは言えない  
D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民の芸術・文化活動の促進

関連計画	
事業期間	平成4年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	北九州市文化振興基金
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、市の文化振興に役立てて欲しいとの篤志家による寄附金等の運用益が原資となり、市民の自主的な芸術・文化活動に対する助成や、資力のない児童に奨学金を交付する、など実施しているものです。本制度を活用することにより市民の芸術・文化活動が更に活発化し、本市の地域文化の振興に寄与することを目指します。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民の芸術・文化活動の促進	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	基金奨励事業 採択件数 27件 (うち1件辞退)	事業の継続実施							
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		北九州市文化振興基金奨励事業の実施						計画	-	年度	平成25年度
		地域文化の裾野を支える芸術・文化活動の動機付けとなる文化振興基金奨励事業について、多くの利用を呼びかけたい。						実績	27 件	内容	事業実施
						達成度	%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	12,327 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	4,220 千円	3,900 千円		
単年度計画							奨学金制度の事務などは、教育委員会 で実施しています。				

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	文化振興基金の助成件数については、市民の自主的な活動に対して行うものであるため、政策的に増加させるものではないが、過去の助成件数に比べ近年は増加傾向にあり、市民レベルでの芸術・文化活動は着実に図られていると考えます。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	市民レベルでの芸術・文化活動を実施するにおいて、助成制度の存在は、確実にインセンティブとなっており、制度の有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 本事業の財源は、篤志家による寄附金等の運用益が原資となっているため、一般財源の持ち出しが少なく済み、経済性は高いと考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 本市の地域文化を支えてきた市民レベルでの芸術・文化活動に対し支援することは、施策実現のために高い効果があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	4 本事業の実施形態(寄附金等の運用益を原資にして実施)から、実施主体は市以外考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア 本事業は、施策に対する有効性や経済性など非常に高く重要な事業であり、効率化を図りつつ今後も継続して取り組む必要があると考えます。

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	市民の芸術・文化活動の促進

関連計画	
事業期間	不明～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	芸術文化育成負担金・補助金
-----	---------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のため積極的に文化活動を展開している文化団体へ助成等を行い、本市の特性である市民レベルでの芸術・文化活動の支援、促進を図ります。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民の芸術・文化活動の促進	成果	芸術文化育成負担金・補助金事業の実施

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	助成団体数 16団体	事業の継続実施							
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)							平成21年度	目標	
		芸術文化育成負担金・補助金事業の実施						計画	-	年度	平成25年度
		市民の芸術・文化活動の促進を図るには必要な事業であると考えます。						実績	16 団体	内容	事業実施
								達成度	%	%	
								計画		年度	
								実績		内容	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	37,750 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	37,750 千円	6,000 千円		
単年度計画	各区文化団体への助成事務などは、各区まちづくり推進課で実施しています。										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 助成制度や助成団体数の多寡が政策の取り組みの指標や成果を示すものではないとは考えているが、本市にはプロの芸術家や音楽家は非常に少なく、働きながら文化活動を行っているケースが多数であり、助成制度の存在により一定の市民レベルでの活動を支えている側面はあると考えます。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	助成制度により北九州シティオペラなどの市民レベルでの芸術・文化活動を支えており、制度の有効性は高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	3	助成に頼ることなく活動できる体制を、文化団体が財政面、意識面から持つように指導が必要だと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	3	現在のところ、財政面での支援は必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	現在のところ、実施主体は市以外考えられません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	各団体ごとに助成のあり方を検討する必要があります。